

編集後記

本号は港湾小特集号となっています。表紙写真も第三海堡撤去での施工状況写真です。

さて、この東京湾第三海堡ですが、明治新政府が帝都「東京」を防護するために建設した東京湾口の海中に設けられた砲台設置のための人工島です。

建設工事は、水深が39mもあって潮流も激しいため徹頭徹尾波浪との闘いに終始し、明治年間における軍事土木最大の難工事だったようです。明治中期から大正10年(1921年)の竣工まで巨額の工費をかけ、幾多の貴重な人命を犠牲にし、大変な苦勞をして建設された34,000平方メートルにおよぶエリアには、15cmカノン砲4門、10cmカノン砲8門の大砲と探照灯などが装備されました。

しかしながら竣工してからわずか2年後、関東大震災によって倒壊し、第三海堡は4.8mも沈下し、施設の1/3が水没して機能を失ってしまいました。結局、第三海堡は軍事施設としては実用されることはなく、

その後の第三海堡は半ば暗礁と化し、東京湾口における障害物となっています。

人は懸命に一つのことに打ち込んできたり成功体験を積むと、こうでなければならぬという枠にとらわれるようになるようです。それは一見正しい信念のようにも思えますが、本当にそうでしょうか。こだわりや形式主義が考えることを阻み、本質をむしばんでいきます。昨今は、いろいろなところで社会資本整備、建設工事は是非が議論されるようになってきました。「物」を造るうえでの機能目的は明確ですが、今、何を必要として何を優先するのか。経済成長、生活の利便性・安全性、環境保護など、人それぞれが異なった価値観を持ち、求めるものも多様化しています。後世に残る良質な事業展開を行うためには、時代の流れや状況に耳を澄まし、本質を見据えていく必要があるような気がします。

最後になりましたが、ご多忙の中、ご執筆いただきました皆様方に深く御礼申し上げます。

(池田・森)

機関誌編集委員会

編集顧問

浅井新一郎	石川 正夫
今岡 亮司	上東 公民
岡崎 治義	加納研之助
桑垣 悦夫	後藤 勇
新開 節治	高田 邦彦
田中 康之	田中 康順
塚原 重美	寺島 旭
中岡 智信	中島 英輔
橋元 和男	本田 宜史
両角 常美	渡邊 和夫

編集委員長

佐野 正道

編集委員

星隈 順一	国土交通省
小幡 宏	国土交通省
池田 哲郎	国土交通省
佐藤 隆	農林水産省
伊藤 早直	原子力安全保安院
本多 明	日本鉄道建設公団
軍記 伸一	日本道路公団
新野 孝紀	首都高速道路公団
坂本 光重	本州四国連絡橋公団
山崎 劭	水資源開発公団
高村 和典	日本下水道事業団
吉村 豊	電源開発
渡辺 博明	大林組
横山 満	鹿島
橋本 弘章	川崎重工業
岩本雄二郎	熊谷組
有光 秀雄	コベルコ建機
金津 守	コマツ
奥山 信博	清水建設
山口喜久一郎	新キャタピラー三菱
芳賀由紀夫	大成建設
星野 春夫	竹中工務店
加藤 謙	東亜建設工業
境 寿彦	日本国土開発
斉藤 徹	日本舗道
森 秀文	ハザマ
宮木 克己	日立建機

10月号予告 橋梁特集—最近の橋梁の架設工法と維持管理機械

- ・プレキャストスパン工法による高架橋架設—台湾新幹線の急速施工—
- ・コンクリートアーチ橋のメラン併用斜吊り張出し架設—町道日生頭島線頭島大橋(仮称)の建設—
- ・専用架設作業車による大型プレキャストPC床版の架設—第二東名高速道路富士川橋の施工—
- ・エアキャスターを用いた鋼桁橋の送り出し架設—第二東名高速道路駒瀬川橋—
- ・東名高速道路を横架する跨道橋の一括工法による架け替え
- ・ゴンドラとロールによる塗装の機械化—吊り橋の主塔用塗装装置の開発—
- ・橋梁の大型化とメンテナンスニーズの増加への対応—大型橋梁点検車の進化—
- ・韓国長大橋(永宗大橋, 廣安大橋)の橋梁点検車
- ・錦帯橋の架け替え

No.643 「建設の機械化」 2003年9月号

[定価] 1部 840円(本体 800円)
年間購読料 9,000円

平成15年9月20日印刷

平成15年9月25日発行(毎月1回25日発行)

編集兼発行人 玉光弘明

印刷所 株式会社技報堂

発行所 社団法人日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館内

電話 (03) 3433-1501; Fax. (03) 3432-0289; <http://www.jcmanet.or.jp/>

施工技術総合研究所	〒417-0801 静岡県富士市大淵 3154	電話 (0545) 35-0212
北海道支部	〒060-0003 札幌市中央区北三条西 2-8	電話 (011) 231-4428
東北支部	〒980-0802 仙台市青葉区二日町 16-1	電話 (022) 222-3915
北陸支部	〒951-8131 新潟市白山浦 1-614-5	電話 (025) 232-0160
中部支部	〒460-0008 名古屋市中区栄 4-3-26	電話 (052) 241-2394
関西支部	〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-7-4	電話 (06) 6941-8845
中国支部	〒730-0013 広島市中区八丁堀 12-22	電話 (082) 221-6841
四国支部	〒760-0066 高松市福岡町 3-11-22	電話 (087) 821-8074
九州支部	〒810-0041 福岡市中央区大名 1-12-56	電話 (092) 741-9380